

第6回景気ウォッチャー調査研究会 議事概要

- 1 日時：令和7年12月15日（月）13:00～14:20
- 2 場所：中央合同庁舎8号館 特別大会議室（ウェブ会議システムを併用）
- 3 出席者
 - (1) 委員（座長以外は五十音順）
　　宅森昭吉座長、岩下真理委員、鈴木将之委員、土屋隆裕委員、
　　広田茂委員、前田和馬委員、大和香織委員
 - (2) オブザーバー
　　岩田賢 三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社 副主任研究員
 - (3) 内閣府
　　吉岡秀弥政策統括官、茂呂賢吾官房審議官、岡野武司参事官、
　　坂口博紀参事官補佐、山本世津子参事官補佐

4 議事概要

「景気ウォッチャー調査の改善に向けた見直しについて」について議論がなされた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

○業種区分について

- ・産業分類を踏まえた表章の変更については、期待していたとおりで妥当と考える。
- ・四半世紀ぶりの調査見直しの一番の目玉は業種区分の見直しだが、業種として入れた方が良いと考えていた業種は全てフォローできている。

○基準構成比について

- ・基準構成比の計算で、経済センサスは2021年を使用しているとのことだが、コロナ禍の影響が残っており、何らかの調整が必要となる可能性もある。
- ・構成比のベースになるデータは、1時点ではなく、過去数年分の平均などを見ても良いと思う。
- ・地域別・業種別でみれば、ウォッチャーの数が一人となるところがあるが、分野ごと、地域ごとにまとめて数字を公表している。そうするとある程度の人数になるので、公表の形態が今と同じであれば問題ないと考える。

○サンプルサイズについて

- ・地域別のサンプルサイズについては、最低標本数を割り当てるという方法もあるが、ウォッチャー創設時から、地域のウォッチャー数の確保のために少ない地域は一定数確保される調整を行っており、そこは最低標本数の割当てと同じような発想であり、考え方は似ている。
- ・サンプルサイズによっては、調査機関を増やすということも考えられるのではないか。

○試行調査について

- ・試行調査の公表方法は、資料P10の「調査の質を担保した上で、相当程度の準備期間を置いて公表」する方針が良い（全員一致）。コメントの精査、ウォッチャーの慣れなど、それなりの準備期間が必要と考える。

○その他指摘事項について

- ・ウォッチャーNEWSで、月例経済報告会議資料などでのコメントの活用事例を伝えるのはよい取組である。ただ、総理大臣や大臣が見ている資料であり、それが政策に反映されてくるんだという点がウォッチャーの皆さんに分かるようにした方が良い。
- ・ウォッチャーNEWSは良いと思うが、最近、音声や動画でニュースを見る人も増えているので、例えばウォッチャーにアバターとなってもらい、自分の意見を出してもらうとか、そういうことも検討してはどうか。

（以上）